

「福祉のまちづくり」

島根県瑞穂町立市木小学校 北尾浩之

はじめに

瑞穂町は島根県の中南部に位置している町で総面積は207.83㎡あり、その約90%が山林原野で占められています。人口は5,152人であり、年々減少傾向にあります。その中で高齢化率は約39%と高く、かなり過疎化・高齢化が進行しています。

まちづくりを進める手法の一つとして、町全体をフィールドと考え、現地保存型の博物館「エコミュージアム運動」を推進しています。今年の5月には瑞穂町において全国エコミュージアム大会が多くの参加者を迎えて盛大に開催されました。

福祉のまちづくり

より高齢化が進む現状において、高齢者福祉の施策は町行政の重要な課題です。そこで、瑞穂町では帝国書院『小学生の地図帳(最新版)』p21に示されたように在宅福祉 デイサービス事業 ホームヘルプサービス事業 配食サービス事業等)

地域福祉(福祉教育、ボランティア事業等)

施設福祉(特別養護老人ホーム、ケアハウス等)

を基本とした各種施策を講じ、社会福祉協議会、民生委員、各

種ボランティア等の協力を得て福祉のネットワーク化を図り、「安らぎとるおいの里」づくりをめざしています。

デイサービス事業

デイサービス事業は「在宅の虚弱老人等に対し、生活の助長、社会的孤立感の解消、心身機能の維持向上を図るとともに、その家族の身体的・精神的労苦の解消を図るため各種のサービスを提供する」事業です。

瑞穂町のデイサービス事業は昭和61年よりボランティア12名によって開始され、昭和62年より町単独事業として専任職員を採用して社会福祉協議会が実施してきました。平成12年より介護保険の施行により、介護保険デイサービス(通所介護)は瑞穂西デイサービスセンターで、介護保険外デイサービス(介護予防事業)は「生きがい活動支援通所事業」(生きがいデイ)として瑞穂東デイサービスセンターで実施しています。

福祉ボランティアの活動

瑞穂町の福祉は在宅福祉・地域福祉推進を重視して実施してきました。その中で、ボランティア活動は大きな力としてその役割を担ってきました。

例えば、配食サービス事業については、昭和59年より全国に先駆けて社会福祉協議会で組織化された調理ボランティアによって調理を、同じく配食ボランティアによってその配食を実施してきました。現在はボランティア事業としてではなく、町の委託事業(介護予防・生活支援事業)として社会福祉協議会が直営しています。

このように、地域に密着したボランティアの活動は瑞穂の福祉の大きな特色といえます。平成7年度に社会福祉協議会にボランティアセンター事業が導入され、今では高齢者や障害者等支援のためのボランティアグループが23団体(平成14年7月現在)登録し、幅広く活動を展開しています。

[参考資料]『瑞穂町地域保健福祉計画2000～2004』(島根県瑞穂町)『安らぎの田舎(さと)への道標』(大橋謙策監修、澤田隆之・日高政恵共著)

